

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21330140

研究課題名(和文) 養老院・養老施設における処遇(ケア)の特質に関する研究

研究課題名(英文) the historical study of care for the elderly person living in the institution that is Yourou-in and Yourou-sisetuu in Japan

研究代表者

岡本 多喜子 (OKAMOTO, TAKIKO)

明治学院大学・社会学部・教授

研究者番号：20142648

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円、(間接経費) 4,230,000円

研究成果の概要(和文)：日本の高齢者施設の先駆形態である養老院・養老施設における利用者の処遇実態を、各施設で保存されている資料から明らかにすることを目的とした。本研究により日本全国の11か所の高齢者施設に保存されていた老人福祉法制定以前のすべての資料を収集し、デジタル化して保存することができた。

処遇困難な利用者のケースファイルの分析を通し、利用者の解決しようとする職員の手探りの支援の様子が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The Yoro-in was the beginning of Japanese elderly person facilities. A purpose of this study is to clarify the situation of an elderly person living in facilities using the first document.

I collected the first documents from eleven facilities established before Second World War. We analyzed the case records of the elderly person living in the Yoro-in who had difficulty of institutional care. We understood that the staffs try to find a new way out about the problems of the elderly person lived in the Yoro-in from the case records.

研究分野：社会学・社会福祉学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：高齢者施設史 処遇史 養老院 養老施設 社会事業史 救護法

1. 研究開始当初の背景

(1) 高齢者施設における処遇(ケア)の質とその援助方法論の開発、理論化に関わって、これまでの研究では戦前・戦中期、さらに老人福祉法制定までの戦後期における養老院・養老施設内での高齢者の生活状況と、そこでの高齢者処遇における職員の関わりは必ずしも明らかにされてこなかった。

従来の養老院・養老施設に関する研究の多くは、個別の施設を中心とした施設の形成史及び制度史が中心で、当時の入所者に関する記録に触れられているものは少ない状況であった。

(2) 養老院・養老施設における高齢者の生活実態や処遇(ケア)を克明に記録した資料少ないことがその原因である。その結果、養老院・養老施設の処遇(ケア)は現在の高齢者施設の援助方法論研究では意味のないもの、無視される存在となっていた。個人記録が残っている少数の施設でも、収集・保存・分析は進んでいない。

2. 研究の目的

(1) 養老院・養老施設における高齢者の生活実態およびそこでの高齢者と職員のかかわりの検討を通して、養老院・養老施設内での処遇(ケア)の社会的役割および影響を分析するとともに、それぞれの時期における処遇(ケア)水準や具体的な援助方法を明らかにし、その先駆性と今日的な意義を明らかにすることを目的としている。

(2) 戦前期の日本においてモデル的養老院とされた浴風園に残されている最初の入所者から今日までの個別の利用者記録のうち、老人福祉法制定までのケースを収集・保存し、分析を行うことで、当時の最先端の高齢者処遇(ケア)の実態を明らかにする。

(3) 本科研費研究の以前から行っている研究で、1963(昭和38)年以前に設立された全国516か所(2007年当時の全施設)の養護老人ホームに

アンケートを実施している。回答を寄せてくれた施設のうち、業務日誌、公文書綴り、処遇記録などが保存されている19施設を訪問し、資料の収集・整理・保存・分析を行う。

3. 研究方法

(1) 資料が存在すると回答した19施設に残されている各種の資料を収集・保存する。収集・保存の方法は、施設側の希望に沿ってデジタルカメラで撮影し保存するか、資料を複写機でコピーをして、そのコピーをPDFファイルとして保存するか2つの方法で行う。デジタルカメラで撮影した資料については、必要に応じて印刷をして紙ベースでも保存する。

(2) 浴風園の入所者記録については、分担をして読み起こしを行い、当時の職員が入所している高齢者にどのような処遇(ケア)の行っていたかの状況について分析する。

(3) 収集した各施設の資料は、個別施設の視点からの分析を行う。施設が設置されている地域の特性、時代ごとの特性などにより、研究会メンバーの関心領域に沿って分析、研究を行う。先行研究の成果を踏まえつつ、これまでの研究では弱かった施設で生活する高齢者に焦点を当て、資料の分析を行う。分析結果は原則月1回行っている研究会で報告し、その後学会発表や研究論文として公表していく。

4. 研究の成果

(1) 資料の収集について 資料が存在し、収集が可能な19施設のうち、浴風園の除く8施設の資料はすべて収集した。浴風園の入所者記録については、1963年頃までの記録が約5,000ケースあり、そのうち842番まではすべて収集した。残りは職員の記録が比較的良く残っているものを中心に約1,200ケースを収集した。また当初は資料収集の予定にはなかった2施設が追加され、その施設の資料もすべて収集することがで

きた。今回資料収集を実施した 11 施設は以下の通りである。

小樽育成院（北海道小樽市）、さっぽろ慈啓会（北海道札幌市）、浴風会（東京都杉並区）、共楽荘（神奈川県・横須賀市）、軽井沢養老院（現・静山荘 長野県軽井沢町）、福生会（大阪府堺市）、神戸老人ホーム（兵庫県神戸市）、一志養老院（現・やまゆりの里 三重県松阪市）、府中静和寮（広島県府中市）、報恩積善会（岡山県岡山市）、福岡養老院（現・博多老人ホーム 福岡県福岡市）

各施設に残っている資料は膨大な量で、それらの収集整理には多くの時間を要した。設立関係資料・事業日誌・入所者記録・過去帳・会計簿・寄付関係書類・会議議事録・年史などを収集した。資料の量はミカン箱大の段ボール 27 箱、ファイリングキャビネット 4 段 2 個となった。その結果、当初収集予定であった 11 カ所の施設での資料収集は行えなかった。

(2) 個人記録の読み起こし 浴風園の入所者記録については、浴風園設立から敗戦までの時期を 5 区分し、それぞれに 25 ケース前後、全体で 132 ケースの個人記録のすべてを読み起こす作業が完了した。これらの資料は手書きで、さらに職員独特の崩し字もあり最終的には中世古文書解読の専門家に依頼して正確に起こした。また要保護者調書については別途 200 名分を読み起こした。これらの個人記録は浴風会に本部を置いていた全国養老事業協会の雑誌「養老事業」に掲載された「寮母日誌」とも比較を行った。その結果、入所者に係る書式の変遷、浴風会の処遇（ケア）に大きな影響を与えた保護課長であった小澤一の係り、処遇困難ケースへの職員の係り方の実際、浴風園全体で行われた労務・慰安・娯楽の実態とその意義などの論文にまとめることができ、昭和初期の浴風園の処遇（ケア）の状況を明らかにした。小樽育児院では育児部の児童および養老部の高齢者、敗戦

後の外地からの引上げ者についての個人記録の読み起こしを終了した。それらを分析し、育児部では収容児童の将来を考えての施策のひとつとして付属農場の設立があったことが明確化された。また警察署をはじめとした行政機関との関わりが強かったことも明らかになった。外地からの引揚者では年齢にかかわらず収容保護していた様子が明らかになった。府中静和寮の個人記録についても読み起こしを終了した。

(3) 韓国の養老院研究 浴風会での資料収集を実施する過程で、浴風会が事務局をしていた全国養老事業協会の資料もいくつか発見することができた。その中に韓国大邱市にあった養老院からの文書が含まれていた。このことを契機として戦前の朝鮮の養老院と全国養老事業協会との関係について検討することになった。歴史のある韓国の養老施設への訪問も行ったが、韓国の養老院の歴史についての研究はほとんど行われていないことがわかった。そこで当時の朝鮮総督府の資料及び東亜日報に掲載された記事をもとに、韓国の養老事業史の研究を行い、論文としてまとめることができた。

(4) 浴風園は東京大学安田講堂の設計で有名な内田祥三氏の設計による施設であり、当初の図面が残っているものの痛みが激しかった。そこで図面の CD-ROM 化を行った。その過程で建築の専門家からの意見を仰ぐとともに、浴風園設計の意図についての新たな文献の発掘にも繋がった。建築関係の雑誌の記事から、浴風園の建物がヨーロッパの医療施設の設計を参考としていたことなどを明らかにすることができた。

(5) 各施設での運営努力 救護法が施行される以前から養老院を運営している施設では、運営資金を調達するための工夫がなされている。もっとも多かったのは賛助会員を募って会費を集めることであった。しかし報恩積善会のように芸能組織をつくり公演収入で施設経費を賄って

いる場合もあった。また小樽育児院では時刻を告げる大砲を打つことでいくらかの収入を得ていた。各施設の努力の跡が見られた。

(6)資料の分析・研究 原則毎月1回開催した研究会で、資料についての分析結果を報告し、適切なものは学会報告や論文として公表した。

研究会は2009年4月から開始し、46回開催した。開催日時及び報告者名と題目を示す。毎回、資料収集状況報告は行っている。

- 第1回 2009年4月28日 研究の進め方
- 第2回 2009年5月26日 浴風園の図面保存
- 第3回 2009年6月23日 資料収集の現状
- 第4回 2009年7月23日 資料の分析方法
- 第5回 2009年8月10日 資料収集の成果
- 第6回 2009年9月7日 資料収集の今後
- 第7回 2009年11月10日 学会報告の検討
- 第8回 2009年12月19日 浴風園の設計図面のデジタル化についての検討
- 第9回 2010年1月25日 韓国養老院調査案
- 第10回 2010年2月15日 浴風会の設計者である内田健三氏についての報告
- 第11回 2010年3月26日
中村律子「韓国の社会福祉について」
- 第12回 2010年4月3日 韓国の養老院調査
西田恵子「ララ物資について」
- 第13回 2010年5月20日 施設長聞き取り
- 第14回 2010年7月30日 仁禮智子・鳥羽美香「浴風園利用者資料のまとめ方について」
- 第15回 2010年9月20日 韓国訪問の件
鳥羽美香「戦前 浴風園史研究2 - 昭和初
おける老年性精神病の2事例と処遇」
西田恵子「戦後混乱期の養老院・養老施設に
みるララ救援物資の実態」
- 第16回 2010年10月22日 小笠原祐次「高
齢者施設における『管理規程』の内容」
- 第17回 2010年11月25日
岡本多喜子「明治期に設立されたキリスト教
主義養老院の研究」

- 第18回 2010年12月17日 記録の分析方法
- 第19回 2011年1月27日
中村律子「ネパールの高齢者問題」
- 第20回 2011年5月28日
濱田智恵美「浴風会の個人データのまとめ方
と個人データの傾向」
- 第21回 2011年6月24日
小笠原祐二「調査から見える養老施設の実
態」
岡本多喜子『罹災要救護者収容所概要』
- 第22回 2011年7月28日 資料収集計画
- 第23回 2011年8月23日
中村律子「浴風会読み起こしから見えること」
- 第24回 2011年10月11日
福馬健一「養護老人ホームの処遇史研究に
むけて」
小笠原祐次「浴風園『保護経過』の養老院・
老人ホーム史からみた意義」
- 第25回 2011年11月29日 韓国養老院調査
西村圭司「戦前の代表的養老院としての浴
風会の設立過程」
- 第26回 2011年12月13日 韓国出張報告
古屋博子「浴風園における処遇が入園者の生
活に与えた影響に関する考察」
- 第27回 2012年2月12日 今後の方針
- 第28回 2012年3月22日
西田恵子「ララ物資に関する調査の状況」
小笠原祐次「浴風園『保護経過』の養老院処
遇史から見た意義」
- 第29回 2012年4月16日
濱田智恵美「小樽育成院『育児部』の概況
(明治31年~昭和22年まで) その1」
小笠原祐次「浴風園『保護経過』の養老院
処遇史から見た意義」
- 第30回 2012年6月4日
濱田智恵美「小樽育成院児童部の状況 そ
の2」
西田恵子「戦後混乱期のララ救援物資に対
する日本社会の応答」
- 第31回 2012年7月26日

鳥羽美香「戦前期養老院における家族的処遇の視点とソーシャルワーク」
仁禮智子「戦前期の浴風園の処遇と記録の研究」
第32回 2012年8月23日 夏の資料収集状況
第33回 2012年9月24日 濱田智恵美「小樽育成院児童部入退所概要からの考察」
第34回 2012年11月9日 学会での報告コメントについての検討・資料整理の方法
第35回 2012年12月14日
小笠原祐次「戦中期の養老院の状況 2」
第36回 2013年1月28日
中村律子「ネパールの高齢者福祉」
岡本多喜子「韓国における養老事業史試論」
第37回 2013年3月14日
古屋博子「浴風会における在園者処遇の方針とその実践に関する報告」
中村律子・鳥羽美香・濱田智恵美「北海道調査の報告」
岡本多喜子「博多老人ホーム及び府中静和寮・報恩積善会訪問報告」
第38回 2013年4月24日
鳥羽美香「浴風園関連論文について」
濱田智恵美「軽井沢養老院での聞き取り」
第39回 2013年6月14日 鳥羽美香「北海道における養老事業の展開と今日的意義」
古屋博子「戦前の浴風園における在園者の処遇方針とその実践に関する考察」
第40回 2013年7月30日
古屋博子「戦前の浴風園における在園者の処遇方針とその実践に関する考察 その1」
小笠原祐次「浴風園入所者事例」
第41回 2013年9月19日
古屋博子「戦前の浴風園における在園者の処遇方針とその実践に関する考察 その2」
鳥羽美香「北海道における高齢者施設の発展状況」
第42回 2013年10月28日
西田恵子「戦後混乱期における福祉施設の運営とララ救援物資」
小笠原祐次「養老関係年表など」

西村圭司「浴風園の処遇について」
第43回 2013年11月18日
岡本多喜子「浴風会資料の2事例について」
第44回 2013年12月20日 西村圭司「浴風会に関する処遇(ケア)について」
小笠原祐次「養老事業に関する資料提供」
第45回 2014年1月30日
福馬健一「老人ホーム体系における養護老人ホームの位相の変遷」
第46回 2014年3月28日
岡本多喜子「韓国における養老院史試論」

5. 主な発表論文など

[雑誌論文](計10件)

岡本多喜子、韓国における養老院史試論、明治学院大学社会学・社会福祉学研究、査読なし、第142号、2014年3月、PP.1-30、
<http://hdl.handle.net/10723/1898>

鳥羽美香、北海道における養老事業の展開と今日的意義、文京学院大学人間学部研究紀要、査読あり、第15巻1号、2014年3月、PP.137-150

濱田智恵美、小樽育成院育児部の入退院概要からの考察、明治学院大学社会学部附属研究所年報、査読なし、第43号、2013年3月、PP.55-68、
<http://hdl.handle.net/10723/1436>

小笠原祐次、戦争と高齢者施設 戦中の養老院老院の暮らし・もうひとつの銃後、ゆたかな暮らし、査読なし、第375号、2013年8月、PP.18-23

鳥羽美香、戦前期養老院における処遇困難事例とその対応、文京学院大学人間学部研究紀要、第14巻、査読あり、2013年3月、PP.27-39

西村圭司、戦前期の代表的養老院としての浴風会の成立過程 内務省との関わりを中心に -、明治学院大学社会学部学内学会 SocialI、査読あり、Vol.20、2012年3月、PP.33-42

岡本多喜子、明治期に設立されたキリスト教主義養老院の研究 明治学院大学社会学部附属研究所年報、査読なし、第41号、2011年3月、

PP.77 - 91、<http://hdl.handle.net/10723/785>

鳥羽美香、戦前の養老院における記録と入所者情報に関する考察 - 事例分析による入所者の背景と生活困窮の要因、文京学院大学人間学部研究紀要、査読あり、第12巻、2010年12月、PP.257 - 269

岡本多喜子、浴風園の入所者記録の意義、明治学院大学社会・社会福祉研究、査読なし、第131号、2009年3月、PP.77 - 79

鳥羽美香、戦前の養老院における入所者処遇救護法施行下の実践を中心に一、文京学院大学人間学部研究紀要、査読あり、第11巻、2009年3月、PP.131 - 146

[学会報告] (計9件)

村圭司、介護施設領域における施設処遇史研究の意義、第21回介護福祉学会、2013年10月

鳥羽美香 他、北海道における養老事業の展開と今日的意義 - 札幌・小樽・函館における養老事業から老人福祉に至る展開を中心に - 日本社会福祉学会第61回秋季大会、2013年9月

古屋博子、小笠原祐次、岡本多喜子、中村律子 他、戦前の浴風園における在園者の処遇方針とその実践に関する考察 労務、慰安、娯楽が在園者の生活に与えた影響 日本社会福祉学会第61回秋季大会、2013年9月

鳥羽美香 他、戦前期養老院における家庭的処遇の視点とソーシャルワーク - 家族舎の活用とその今日的意義、日本社会福祉学会第60回秋季大会、2012年10月

仁禮智子、小笠原祐次、岡本多喜子、中村律子 他、戦前期の浴風園の処遇と記録の研究 - 浴風園「保護経過」の分析を通して一、日本社会福祉学会第60回秋季大会、2012年10月

西田恵子、戦後混乱期の養老院・養老施設にみるララ救援物資、日本社会福祉学会第60回秋季大会、2012年10月

小笠原祐次、浴風園「保護経過」の養老院処遇史から見た意識 浴風園入園者記録の発掘作業から一、社会事業史学会第40回記念大会、

2012年5月

鳥羽美香、戦前期浴風園史研究2 日本社会福祉学会第58回秋季大会、2010年10月

鳥羽美香、戦前期浴風園史研究 日本社会福祉学会第57回秋季大会2009年10月

[図書](なし) [産業財産権](なし) [その他](なし)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本多喜子 (OKAMOTO, Takiko)
明治学院大学・社会学部・教授
研究者番号: 20142648

(2) 研究分担者

中村律子 (NAKAMURA, Rituko)
法政大学・現代福祉学部・教授
研究者番号: 00172461

(3) 連携研究者

- ・小笠原祐次、(OGASAWARA, Yuji)
元・中部学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号: 90072991
- ・鳥羽美香 (TOBA, Mika)
文京学院大学・人間学部・教授
研究者番号: 10406556
- ・西田恵子 (NISHIDA, Keiko)
常磐大学・コミュニティ振興学部・教授
研究者番号: 50464706
- ・中村英三 (NAKAMURA, Eizo)
長野大学・社会福祉学部・教授
研究者番号: 00549991

(4) 研究補助者

- ・西村圭司 (NISHIMURA, Keishi)
江戸川大学総合福祉専門学校・講師
- ・古屋博子 (FURUYA, Hiroko)
内閣府・国家公務員
- ・濱田智恵美 (HAMADA, Chiemi)
明治学院大・学社会学部・非常勤講師
- ・山本(仁禮)智子 (YAMAMOTO(NIREI), Tomoko)
岐阜市役所・地方公務員